

気づきを言葉に。言葉を行動に。

一般社団法人日本ヒーブ協議会

九州支部長 難波 裕扶子

明けましておめでとうございます。皆様には、新しい年の始まりをお健やかに迎えられましたことと存じます。旧年中は、皆様より沢山のご支援ご協力を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

気候変動の危機、コロナ禍、大規模な軍事衝突、経済危機まで、人類は未だかつて経験したことのない困難を迎えています。何を頼りに生きていけばよいのか、暮らし方や仕事の仕方をどのように選んでいけば、世界も未来も私たちもより良い方向に向かうのか。その答えがわからず、誰もが悩み、迷っています。私たちヒーブ会員もつまずきながらも一人の市民として、またそれぞれ所属する様々な組織の一員として「存在意義やあり方」を考え続け、希望ある未来、持続可能な社会実現に向け諦めず必死に歩んでいます。

私たち九州支部の会員は、地方に本拠地を構える企業です。勤める従業員は地元に住む人々が多く、企業の売上や取り組みそのものがその地方の発展につながるケースも少なくありません。そのため、都市部の企業と違い、その地域との立地的・人間的関わりというものは見過ごすことのできない大きな問題であり、地元密着や地域社会へ対する貢献が求められ、地域社会へその価値を還元できるような地方創生と組み合わせる考え方が大きなテーマとなります。

これまで以上に社会課題の深刻さが認識されてきた昨年、九州支部では8月度月例研究会において、当協議会の「存在意義やあり方」をあらためて考える講演会を開催しました。

SDGs コミュニケーターとして活動している支部長の難波裕扶子による「Rethink ローカルSDGs～あなたの未来を"地域"という視点で探究～」をテーマにした講演を行い、企業にとってのSDGsやESGについて触れ、地域によって求めるものが違うからこそ「何ができるのか」を考えてみるのが大切であること、そして個人として組織として行動できる身近な取り組みを具体的に紹介しました。その後、九州支部会員企業のエフコープ生活協同組合・事業企画部部长麻生祥子氏による事例発表『エフコープがめざす「共助社会づくり」』では、「地域との共創と事業性を進めるなか、地域福祉や農業生産、子育て支援・教育、エネルギー環境事業、生活困窮者支援などの新規事業が広がっていった」という、企業と地域とが互いに共助する意義深い事例をご紹介いただきました。グループに分かれての意見交換では、自分が住む街や働く街とのつながりを深める時間となり、新しい時代を生きる当協議会と会員の「存在意義やあり方」について会員それぞれが再確認できたのではないかと思います。

行動こそ希望です。ヒーブ創設45周年を迎える本年、皆さまとこれからも共に豊かな未来・世界実現に近づけるよう学び、気づいたことを言葉にし、そして行動し続けてまいります。

この一年が皆様方にとりまして、穏やかで、平安なものとなりますことを心よりお祈り申し上げます。私からの新年のご挨拶といたします。